

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭56-25524

⑫ Int. Cl.³
E 02 D 29/14

識別記号

庁内整理番号
6954-2D

⑬ 公開 昭和56年(1981)3月11日

発明の数 2
審査請求 有

(全 5 頁)

⑭ 蓋の蝶番構造

兵庫県川辺郡猪名川町松尾台4
丁目1-6

⑮ 特 願 昭54-101097

⑯ 出 願 昭54(1979)8月7日

福岡市中央区天神1丁目14-16
(三栄ビル)

⑰ 発明者 伊原友浩

明細書

1.発明の名称 蓋の蝶番構造

2.特許請求の範囲

1. 蓋(1)裏面の周縁部と受枠(2)との間に蝶番金物(3)を取付けた蓋において、蝶番金物(3)に受枠(2)の内周壁の一部と保止する鉤(4)を突設させることを特徴とする蓋の蝶番構造。

2. 蓋(1)裏面の周縁部と受枠(2)との間に蝶番金物(3)を取付けた蓋において、蝶番金物(3)に受枠(2)の内周壁の一部と保止する鉤(4)を突設させ、更に蝶番金物(3)に蓋(1)下方のマンホール又は縫穴内に発生する水流又は気流によって上記鉤(4)が保止方向に移動せしめる翼部(5)を設けてなる蓋の蝶番構造。

3.発明の詳細を説明

本発明は上下水道用、電力遮断通信用、ガス用等のマンホール及びその他の縫穴を閉塞する蓋における蝶番の構造の改良に関するもの。

従来の蓋の蝶番構造は蓋裏面の周縁部に蝶番の蝶番金物の頭部を嵌着し、周縁部の下部を受枠内周壁に突設させた蝶番受座孔内に遮蔽し周縁部受座孔からかなり下方位置にある蝶番金物の下端に蝶番受座と保止するストッパー(6)を設けたものであつて、そのため外側からの開設しようとする作用力が働く場合は、蓋がかなり持ちあげられるので受枠の蝶番受座と反対方向にて蓋に開発角を開けても蝶番部分が持ち上げられて蓋が傾き、それだけで開錠してしまう場合があり、又蓋を持ち上げて水平方向に回動せしめれば開蓋させることができるという欠点があり、これを解消すべく蝶番頭の頭部を増加せしめればそれだけ蓋の構造が複雑となり且つ高価にもつくし、更に開錠作業に多人数を要するという問題が生じてくる。

更には蓋の下方のマンホールや縫穴に発生する異常圧による気流、水流、漏風によって蓋が浮上し、施設した鉤がはずれて、ために開錠するとい

う危険性もあつた。

本発明はこれらの欠点を解消せしめた構造構造を提供せんとするものである。この発明は

- 1) 直(1)底面の周縁部と受枠(2)との間に構造金物(3)を取付けた直において、構造金物(3)に受枠(2)の内周壁の一部と保止する釣(4)を突設させることを特徴とする直の構造構造。
- 2) 直(1)底面の周縁部と受枠(2)との間に構造金物(3)を取付けた直において、構造金物(3)に受枠(2)の内周壁の一部と保止する釣(4)を突設させ、更に構造金物(3)に直(1)下方のマンホール又は縫穴内に発生する異常圧による水流、気流又は漏風によって上記釣(4)が保止方向に移動せしめる構造(5)を設けてなる直の構造構造に係るものである。

なお図中(6)は受枠の構造受座、(7)は周受座孔、(8)は受枠(2)の内周壁の釣(4)との保止部、(9)は施錠釣(10)は周受座孔の枢軸、(11)は釣保止部、(12)

(3)

位面の急激な上昇に伴ってマンホールや縫穴内での地上方向への急激な水流、気流が発生した場合、構造金物(3)の端部(15)に空気圧、水圧が働き、この空気圧、水圧等の流体圧の水平分力によって構造金物(3)を釣(4)が保止する方向に動かせしめるため釣(4)の保止状態を常に維持せしめることが出来るものである。

以上の様に、本発明によれば、構造金物(3)に受枠(2)の内周壁の一部と保止する釣(4)を設けることによって施錠を完全なものとし、又、専用の施錠釣の個数を少なくでき、更に構造金物(3)の下方に端部(15)を設けることによってマンホール縫穴内に発生する水流、気流による力を受けても釣(4)がはずれることもなく、釣(4)の機能をより確実にならしめることができるという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図1は本発明直の構造構造を示す縦断面図、

は受枠(2)の直(1)と勾配にて盛放する勾配受部、(13)は構造金物(3)のストッパー、(14)は施錠釣(10)の端部である。

この発明では直(1)を持上げようすれば、釣(4)と受枠(2)の内周壁の一部(図中保止部(8))とが保止し、持ち上げを防止しよって構造金物の片上りを防ぎ、施錠釣(10)の機能を失わせることなく、より確実な施錠を確保でき、解錠して直(1)を開放する場合は施錠釣(10)を特殊バー等によって解錠し、直(1)を持ち上げながら受枠の構造受座(6)の反対側の斜め上方に引っぱれば釣(4)と保止部(8)との保止が解除され、その後に専用バー等によって大きく持ち上げて直(1)を垂直方向(180°旋回)に反転又は水平方向(360°旋回)にスライドさせることによって直(1)を開くことができるものである。

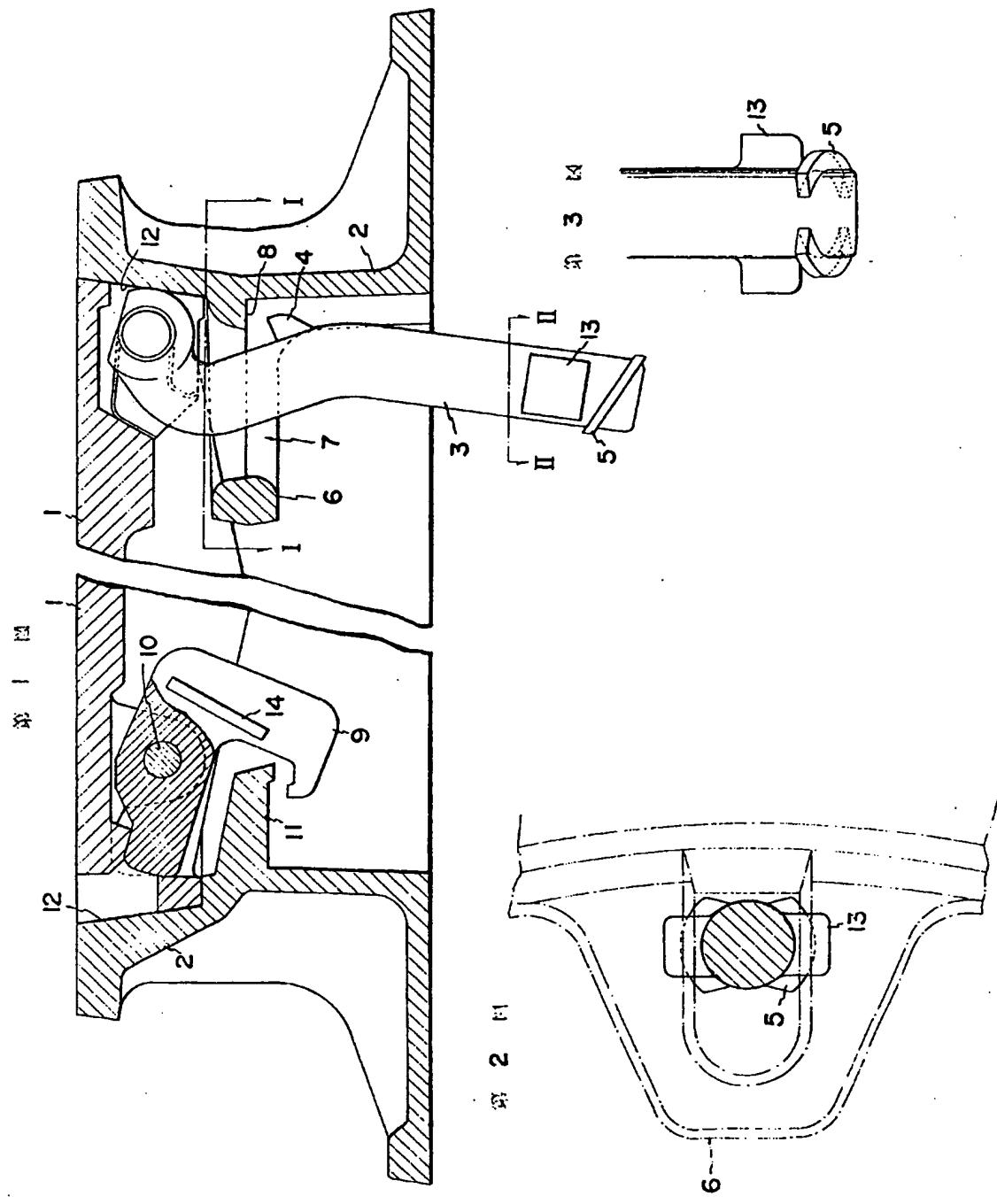
更に直(1)下方のマンホール又は縫穴内に異常圧、漏風や直(1)外部からの雨水の進入による管内水

(4)

第2図は、第1図1-1線における断面図である。第3図は第1図1-1線における矢視図である。

(1) : 直	(2) : 受枠
(3) : 構造金物	(4) : 釣
(5) : 端	(6) : 構造受座
(7) : 構造受座孔	(8) : 保止部
(9) : 施錠釣	(10) : 枢軸
(11) : 釣保止部	(12) : 勾配受部
(13) : ストッパー	(14) : 端部

特許出願人 日昭興産株式会社
代理人 矢野武 (ほか2名)



手 続 補 正 書

特開昭56- 25524 (4)

昭和 54 年 10 月 6 日

特許庁長官 川 原 龍 雄 殿

1. 事件の表示

昭和 54 年 特 許 第 101097 号

2. 発 明 の 名 称

蓋の錆番構造

3. 補正をする者

事件との関係

特 許 出願人

住 所

氏 名 ニッショウコウカン
日昭興産株式会社

4. 代 理 人

住 所 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目1-1
博多新三井ビル

氏 名 (6762) 弁理士 矢 野 武

5. 補正命令の日付

昭 和 年 月 日

6. 補 正 の 対 象

明細書

7. 補 正 の 内 容

(1) 明細書第 4 頁 8 行「解施」を「解錆」に補正
する。(1) 明細書第 4 頁 4 行「持上げようとすれば、」
の次に「錆番金物(3)の」を加入する。(2) 同第 4 頁 6 行「係止し、」の次に「過(3)の」
を加入する。(3) 同第 4 頁 11 行「引っぱれば」の次に「錆番金
物(3)の」を加入する。(4) 同第 4 頁 12 行「(4)と」の次に「受持図の」を
加入する。(5) 同第 5 頁 12 ~ 13 行「マンホール」を「マンホ
ールや」に補正する。(6) 同第 6 頁 2 行「第 3 図は.....矢視図である。
」を「第 3 図は錆番金物の下部を示す側面図で
ある。」に補正する。

(7) 図中、第 1 図を別紙の通り補正する。

手 続 補 正 書

昭和 54 年 10 月 3 日

特許庁長官 川 原 龍 雄 殿

1. 事件の表示

昭和 54 年 特 許 第 101097 号

2. 発 明 の 名 称

蓋の錆番構造

3. 補正をする者

事件との関係

特 許 出願人

住 所

氏 名 ニッショウコウカン
日昭興産株式会社

4. 代 理 人

住 所 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目1-1
博多新三井ビル

氏 名 (6762) 弁理士 矢 野 武

5. 補正命令の日付

昭 和 年 月 日

6. 補 正 の 対 象

明細書及び図面

7. 補 正 の 内 容

特許庁
54.10.5
出願第2222
件

第一 図

